

平成25年度における各協力団体の食育への取組状況

1 青森県小学校長会

活 動 内 容	
<p>これまでの取組を継続させるとともに、さらなる充実に努めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校における「食育の全体計画」の策定に努めている。 2 教科、特別活動、総合的な学習の時間などの授業や学校給食活動など、全教育活動全体をとおして、食育の推進に努めている。 3 栄養教諭、学校栄養職員等の専門家を招き、食に関する指導を行っている。 4 学校保健委員会を通じて、児童、教職員、保護者、地域の方々とともに、食についてともに考える機会を設けている。 5 社会科副読本「いのちはぐくむあおもりの農林水産業」等の教材を活用して、教科と食育の内容の充実に努めている。 	
今後重点的に取り組みたい事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 食に関する指導の問題点を検証し、今後の指導体制確立に努めたい。 2 栄養教諭及び学校栄養職員の指導を中心とした、食に関する指導の充実に努めたい。 3 安全で安心な食品を見分ける力をつける取組を行いたい。
取組の具体的な手法や特徴的なこと	各学校において、学校教育でなすべきことを果たすとともに、家庭との連携にも力を入れていきたい。

2 青森県中学校長会

活 動 内 容
<ol style="list-style-type: none"> 1 「家庭科」「保健体育」の授業で、学習のねらいを達成できるようにしている。 2 生徒会の保健委員会の活動を効果的に展開し、保健委員だけでなく、全校生徒に健康と食の関係を理解させている。 3 学校と家庭が連携し、家庭において日本の伝統的な食文化や郷土食のよさを再認識できるよう努めている。 4 学校給食等をとおして、食の大切さを学ばせている。 (学校給食センターからの「月ごとのメニュー」「給食だより」「お知らせ」の活用など)

3 青森県高等学校長協会

活 動 内 容
<p>これまでの取組を継続させるとともに、さらなる充実に努めている。高等学校においては、学校の教育活動全体を通して行われるものであるが、特に男女必修科目「家庭科」においては、以下のとおり、生活全体の中での食生活の営みという視点を持って指導に努めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生涯を見通した食生活を営む力を育むため、ライフステージごとの食生活について考える機会を作っている。 ②栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解させる実験・実習を用いた体験的な授業を行っている。 ③安全と環境に配慮し主体的に食生活を営む力を身に付けさせるようにしている。 ④「自分で食事を作る」「お弁当の日」など、食材を意識させる機会を設けている。 ⑤食生活上の課題を把握し、それらを解決するために学校家庭クラブ活用やホームプロジェクトを利用し、食育に関する実践的活動に積極的に関わるよう指導している。

食に関する専門科目においては、以下のとおり我が国の食を取り巻く環境の変化や食生活の多様化、国民の健康増進の重要性を考えた、食育の推進を図っている。

- ①食生活が健康に影響することについて、資料や外部講師を活用し、国民健康・栄養調査、朝食の欠食、栄養の偏り、食習慣の乱れ、脂質の過剰摂取、野菜の摂取不足などの実態や生活習慣病が増加していることなどの、具体的に考える機会を通じて、食生活の改善に主体的に取り組む力を身に付けさせるよう授業を行っている。
- ②地域の実態を把握し、保育所や幼稚園等、小学校・中学校、特別支援学校、地域における社会教育団体やNPO(特定非営利活動法人)、企業や事業所などの各種団体等と積極的に連携して活動する機会を設けている。

4 青森県特別支援学校校長会

内 容	
青森県特別支援学校校長会としての事業等を行っていないが、会員それぞれが各校の学校経営において食に関する指導を進めるよう努め、次のように、児童生徒の障害等に応じた食に関する取組を行っている。(各校の主な取組を集約)	
授業における取組 研究会としての取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒を対象とした栄養教諭による授業、栄養士や外部講師による講話等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・栄養と食事のバランス ・生活習慣病について ・現場実習中のバランス良い食べ方、昼食選び 2 保護者を対象とした講習会等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・「食育のススメ ～元気で健康な体づくりをめざして～」 ・「非常食 ～非常食をアレンジした献立～」
イベント的取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 食品を選択する力や食事のマナー・社会性等の育成、給食や食事をする事への興味・関心の高まりや心身の健康等を期待して取り組む活動 <ul style="list-style-type: none"> ・バイキング給食 ・リクエスト給食 ・青空給食 2 地場産物への関心や食文化の伝承などに係る内容を期待して取り組む活動 <ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理教室 ・ふるさと産品給食 ・そば打ち体験
その他の取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校菜園での野菜栽培と給食への活用、調理実習の実施 2 掲示板の活用、「給食だより」「保健だより」「学級通信」等の発行、校内放送による献立等の発表(広く周知を図るための活動) 3 学校給食献立コンクール等への参加、「給食がんばり賞」の取組 4 寄宿舍と連携した取組 <ul style="list-style-type: none"> ・舎食、外食経験等による食の知識等の向上

5 青森県学校保健会

活 動 内 容	
<ol style="list-style-type: none"> 1 健やか青森っ子プラン「健やか青森っ子生活習慣病防止対策」の実施 2 「青森県学校保健・安全・給食研究大会」の開催 ○期日:平成25年11月13日(水) ○会場:青森市立筒井中学校 3 学校保健関係団体が行う健康教育に対する支援 	
取組の具体的な手法や特徴的なこと	県教育委員会、郡市学校保健会及び学校保健関係団体等と連携し、幼児、児童生徒の心身の健康の保持増進と健康課題を解決するため、健康教育としての食育を推進。
今後取り組みたい事項	これまで同様、健康教育の中で総合的に取り組むとともに、学校保健関係団体が行う食育に関して積極的に支援する。

6 青森県PTA連合会

事業名	食育活動助成事業
期 日	平成25年6月～平成26年5月
連携団体	公益財団法人 青森県学校給食会
活動内容・参加者等	(公財)青森県学校給食会から、PTAが行う食育活動に対し、経費の一部助成を受ける。
取組の具体的な手法や特徴的なこと	(財)青森県学校給食会との継続的連携による事業の推進。

7 公益財団法人 青森県学校給食会

活 動 内 容	
1	<p>学校給食に「生きた教材」として、本県で生産された農畜産物及び水産物を年間を通して安定的に供給できるよう、県農林水産部、農協、漁協等の協力、支援をいただき、地場産品の商品の開発・加工に取り組んでいる。</p> <p>平成25年度の県産冷凍カット野菜は、前年度から取り扱いを開始した「ほうれん草」、「小松菜」、「ブロッコリー」等の他、新たに「ごぼう」、「アスパラガス」、「カリフラワー」をの加工品を開発し、供給を行った。</p> <p>また、県産水産物の開発加工品は、前年度の「イカ」、「イワシ」の開発に引き続き、「サケ」の加工品の開発を行っている。</p>
2	<p>学校給食用小麦粉パンについては、平成25年度から主原料を県産小麦粉ネバリゴシ20%から県産小麦粉ゆきちから50%とし、新たな小麦粉パンの供給を行っている。</p> <p>また、新たな多様化パンとして、県産の南瓜ペーストとにんじんペーストを生地に練り込み、脱脂粉乳を取り除いた乳アレルギー対応パンの開発に向け、試作を行っている。</p>
3	<p>学校給食用米粉パンについては、県産の小麦粉(ゆきちから)と米粉を原料とした県産品100%の米粉パンの供給を行っている。</p>
4	<p>学校給食に関する食育活動の一環として、フードモデル(農水産物36種類)を指導教材として作成し、学校、食育関係団体等に貸出を行っている。</p>
5	<p>子どもたちが青森県で生産、漁獲される主要農水産物について理解を深めるようわかりやすく解説した青森県産農林水産物(地産地消)カレンダーを青森県農林水産部、青森県教育委員会の協力を得て作成し、青森県内学校給食実施校の全学級に配付した。</p>
6	<p>青森県PTA連合会と連携して、県内の郡市連合PTA及び単位PTA活動の「食育推進事業」に対して、経費の一部を予算の範囲内で助成する事業を行っている。</p>
7	<p>地場産品を活用した食に関する指導の充実を図るため、青森県学校給食献立コンクールを青森県教育委員会等と共催で実施し、食育推進の支援を行った。</p>
取組の具体的な手法や特徴的なこと	<p>県PTA連合会、県学校給食センター連絡協議会及び県学校栄養士協議会との連携を図り、食育の普及啓発を効果的に行いたい。</p> <p>また、生産者団体等の協力を得て、地産地消の商品開発に努めたい。</p>

8 青森県学校給食センター連絡協議会

活 動 内 容	
<p>学校給食センターの運営を円滑に推進するために、食育及び地産地消に関する研修会等を開催し、食育事業に取り組んできた。</p>	
取組の具体的な手法や特徴的なこと	<p>学校給食関係団体と連携して、食育事業を支援していきたい。</p>

9 青森県養護教員会

活 動 内 容	
<p>1 会員各自が、勤務校において、地域・家庭・関係機関と連携をとりながら、食育に関する内容に取り組んでいる。</p> <p>【実践例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養教諭や学校栄養教員と協力して学級における「食」に関する指導を実施 ○ 地域の食材を献立に取り入れ給食指導の場面で紹介 ○ 生産者の声を聴いたり生産活動を体験した児童・生徒の紹介 ○ 学校保健委員会で「食」について取り上げて健康な体づくりについて地域や家庭と考える場を設定 ○ 月1回のお弁当デーを設定し、児童生徒が自分で栄養バランスを考え作ってみることを提案など <p>2 県または各郡市において、研修会や情報交換の場で、児童生徒の健康課題の改善のために、「食育」を取り入れた実践を紹介し、資質向上を図っている。</p> <p>【実践例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歯の健康のためにおやつの内容に着目した指導を実施 ○ 「食育の日」を設けて栄養教諭と共に休息時間に各学級に出向いて「食」に関する指導を展開 ○ 参観日に栄養教諭を招き保護者に「食」に関する講話や情報交換を実施 ○ 高校生に対して食生活を含む生活習慣に関して振り返らせることでメタボリックシンドロームの予防を促す取り組み ○ 栄養教諭による「食の安全」や「食物アレルギーの予防」に関する研修会を実施など 	
<p>取り組みの具体的な手法や特徴的なこと</p>	<p>栄養教諭や学校栄養職員が配置されていない学校に勤務する場合が多く、校務分掌の中で、「食育」や「給食」に携わる場面が多い。</p> <p>そのため、自校の健康課題を見据え、多岐にわたる「食」に関する内容の中でも、今自分の学校の児童生徒には何が必要かを考えて、関係職員と計画を立案し、最優先課題を意識的に盛り込んでいける利点がある。</p> <p>今後も、「児童生徒へのヘルスプロモーション」を常に念頭に置きながら、自校の職員や家庭、関係機関と手を携えて、「食育」に取り組んでいきたい。</p>

10 青森県学校栄養士協議会

事業名 ①	生活習慣病予防のための研究会「すこやか食生活大作戦」
期 日	平成25年8月～平成28年3月
場 所	県内各学校給食施設・学校
活動内容・参加者等	肥満の出現率が高い青森県の児童生徒に対し、肥満解消に向けて会員全員で、研究会を立ち上げた。具体的には、会員を調査研究班、個別指導班、食育研究班の3グループに分け、糖分、塩分、脂肪の適切な摂り方を基本として、食生活の改善を3年計画で目指している。
事業名 ②	調理講習会の実施
活動内容・参加者等	・喜ばれる給食を目指し、県内の料理人を講師に迎え会員の資質の向上に努めた。 ・会員が講師となり、勤務校や他校の保護者に対し、家庭の食生活の改善を目指し、調理講習会を行った。
事業名 ③	食に関する指導
活動内容・参加者等	・給食時間に学級を訪問し、一言栄養指導等を行っている。 ・特別活動の時間に、バランスのとれた食事、朝食、おやつの摂り方等の指導を行っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科や保健体育などの教科の時間に、調理実習やより良い発育、病気の予防などについて指導を行っている。 ・児童生徒、保護者、地域の住民が集まる学校保健委員会では養護教諭と連携し、健康的な食生活をおくるための助言を行っている。
事業名 ④	ふるさと産品給食の日
期 日	平成25年6月、11月
場 所	県内各学校給食施設、学校
活動内容・参加者等	毎年6月・11月に県内や地元産品を多く取り入れた給食を実施し、給食だよりや校内放送などで紹介し、児童生徒、保護者に対し地産地消の啓発を図っている。
取組の具体的な手法や特徴的なこと	<ul style="list-style-type: none"> (1) ふるさと産品を数多く使用した給食メニューを実施する。 (2) その日に使用したふるさと産品について給食だよりに掲載する。 (3) 給食時間に教室の訪問し、ふるさと産品について説明する。 (4) 給食時間の放送資料を提供する。 (5) 学級担任にふるさと産品についての資料を提供する。
事業名 ⑤	学校給食週間行事～家庭・地域との絆を深める学校給食～
期 日	平成26年1月24日～30日
場 所	県内各学校給食施設・学校
活動内容・参加者等	全国で給食が始まった日を記念し毎年1月24日～30日を学校給食週間としているが、地域の産物を使用した料理や郷土料理を給食にとりいれたり、食べることができることへの感謝の気持ちを育たせることによって、給食の意義を考える週間としている。
取組の具体的な手法や特徴的なこと	<ul style="list-style-type: none"> (1) 献立作成 ・地域の産物を生かした郷土料理 ・地域の伝承料理 (2) 食の指導 ・郷土料理や地場産物を扱った授業等 (3) 啓発活動 ・全校朝会や校内放送等での取り組み
備 考	平成26年度も実施予定

1 1 NPO法人 青森県消費者協会

活 動 内 容	
1 食育活動の継続 (1) 食の安全・安心推進事業 (2) 地産地消推進事業・県産食材利用推進事業 (3) 震災復興応援事業 2 重点的な取組内容	
事業名 ①	食の安全・安心推進事業（5回）
期 日	平成25年4月～平成26年3月
場 所	青森市
活動内容・参加者等	食の安全・安心の推進については、専門家を招き、講演会、フォーラム、研修会、学習会等を開催 ■5月22日(水) 「学ぶことから始めよう～自立した消費者に向けて～」 (食品表示に関わる法制度の一元化) 講師: 消費者庁長官 阿南久氏 会場: 県民福祉プラザ県民ホール ■6月8日(土) 「食品に関するリスクコミュニケーション～牛海綿状脳症(BSE)対策の見直しに関する説明会」参加

	<p>講師:青森県健康福祉部保健衛生課食品衛生グループ 会場:県民福祉プラザ県民ホール</p> <p>■10月4日(金) 「地方消費者グループ・フォーラムin東北」 ○第3分科会「健康と食の安全」 助言者:国立健康・栄養研究所情報センター 健康食品情報研究室長 千葉剛氏 会場:青森グランドホテル</p> <p>■11月27日(水) 「安全な食肉の選び方と調理の方法を知ろう～生食用食肉規格基準より～」 講師:一般社団法人青森県薬剤師会衛生検査センター 所長 川村仁氏 会場:県民福祉プラザ4F多目的室4A</p> <p>■1月30日(木) 「食品中の放射性物質に関するコミュニケーター養成研修」 講師:①東京大学准教授 飯本武志氏(放射線物質に関する基礎知識) ②消費者庁消費者安全課企画官 金田直樹氏(食品中の放射性物質に関する説明およびDVD上映) ③元青森放送アナウンサー 葛西賀子氏(話し方に関する講義) ④消費者庁消費者安全課政策企画専門職 大浦由樹子氏(当該事業概要説明) 会場:アピオあおもり 大研修室2</p>
事業名 ②	地産地消推進事業・県産食材利用推進事業（7回）
期 日	平成25年4月～平成26年3月
場 所	青森市
活動内容・参加者等	<p>県産品に親しみ、利用拡大するためのフォーラム、料理講習会、セミナー等を実施。</p> <p>■4月23日(火) 「春！色とりどりのお料理」調理実習 講師:青森県食生活改善推進員連絡協議会参与 大森頼子氏 会場:県民福祉プラザ 5F調理室</p> <p>■9月4日(水) 「伝統料理」調理実習 講師:青森県食生活改善推進員連絡協議会参与 大森頼子氏 会場:青森市総合福祉センター 2F調理実習室</p> <p>■10月4日(金) 「地方消費者グループ・フォーラムin東北」 ○第7分科会「環境とくらし(食品残渣の視点から)」 助言者:青森中央短期大学食物栄養学科准教授 棟方秀和氏 会場:青森グランドホテル</p> <p>■10月18日(金) 「郷土料理」調理実習 講師:青森生活学校連絡会会長 佐藤和子氏 会場:青森市総合福祉センター 2F調理実習室</p> <p>■11月6日(水) 「第49回青森県消費者大会」 食の安全・安心及び県産食材利用推進のため、青森県すこやか福祉事業団他12団体から出展</p> <p>■11月14日(木) 「青森県産豚肉セミナー」(講義) 「県産豚肉の栄養と効用を知り、大切に『いのち』をいただく」</p>

	<p>講師:①青森県畜産課経営支援グループ 主査 阿保洋一氏 ②(株)川賢 代表取締役社長・青森県養豚協会副会長理事 川村高明氏 ③日本フードパッカー(株) 青森工場ポーク部部長 鬼山義彦氏</p> <p>会場:県民福祉プラザ4F 多目的室4A</p> <p>■12月10日(火) 「青森県産豚肉セミナー」(調理実習)「パワーちゃんこ汁」 講師:青森県畜産課企画管理グループ 主幹 山田健司氏 会場:県民福祉プラザ5F 調理実習室</p> <p>※10月16日「環境にやさしい農業」産地見学会(75名:横浜町、むつ市)を予定したが、台風接近により前日中止となった。</p>
事業名 ③	震災復興応援事業(1回)
期 日	平成25年4月～平成26年3月
場 所	青森市
活動内容・参加者等	<p>■10月4日(金) 食品中の放射性物質については、いろいろな情報に過剰な心配をするのではなく、安全を見極める力を養うことが重要なことなどを話し合った。 「地方消費者グループ・フォーラムin東北」○第1分科会「震災被災者への生活支援」 助言者:岩手県消費者団体連絡協議会 事務局長 伊藤慶子氏 会場:青森グランドホテル</p> <p>「 同 上 」○第2分科会「震災による風評被害対策」 助言者:福島県消費者ネットワーク 事務局長 佐藤一夫氏</p>
事業名 ④	米粉消費拡大推進事業(3回)
期 日	平成25年8月～平成26年1月
場 所	青森市、十和田市
活動内容・参加者等	<p>米粉利用拡大PR活動として、消費者に米粉を知ってもらうための事業を実施し、米粉の家庭での利用促進につなげた。</p> <p>■11月6日(水) 「第49回青森県消費者大会」 内容:米粉100%パンの試食による感想を含むアンケート調査の実施、米粉サンプル米粉レシピ、米粉の特性チラシ等の配布 会場:県民福祉プラザ</p> <p>■11月10日(日) 「アピオあおもり秋まつり」 内容: 同 上 会場:アピオあおもり</p> <p>■11月27日(水) 米粉セミナー&料理教室「米粉をご家庭にクッキング」と題し、米粉の特性や普及の問題点について学び、シチュー・唐揚げ・米粉麺・チヂミ等を作り、米粉と小麦粉等の食べ比べ、米粉を使った簡単料理について学習した。 講師:(株)ケイホットライス 取締役 船水雅子氏 会場:十和田市東公民館</p>
事業名 ⑤	高齢期の食育推進事業(2回)
期 日	平成25年4月～平成26年3月
場 所	青森市
活動内容・参加者等	<p>■8月21日(水) 高齢期の健康には、骨折予防にカルシウムを、コレステロール値は適正に、など食事、運動、休養のバランスが大事なことを学んだ。</p>

	<p>「楽しく食べて、健康に！」 講師:キューピー(株) 研究開発本部 犬飼進氏 会場:県民福祉プラザ 多目的室</p> <p>■9月9日(月) 「食卓から栄養を考えよう」 講師:青森中央短期大学食育サポーター事務局 食育コンシェルジュ 森山洋美氏 会場:県民福祉プラザ 共用研修室1</p>
事業名 ⑥	消費者協会会員のための食育サポーター支援事業(3回)
期 日	平成25年4月～平成26年3月
場 所	県民福祉プラザ他
活動内容・参加者等	食育サポーターに登録している当協会会員のスキルアップのための研修会を実施。

12 青森県食生活改善推進員連絡協議会

活 動 内 容	
1	男性料理講習会 男性を対象に、生活習慣病予防や食育をテーマに、調理実習、講話、健康相談を実施。
2	食育推進事業 地域住民、一般成人、中高校生を対象に、望ましい食習慣、知識、地産地消などを普及啓発。
3	エコクッキング活動 食べ物を大切に作る心を育て、ごみの削減、水の節約等につながるエコクッキングを普及啓発。
4	8020推進事業 8020推進隊育成への協力及び関連事業への積極的な参加協力。
5	食事バランスガイド推進事業 食事バランスガイドの普及浸透を図るための調理実習、講話会、伝達講習を実施。
6	スピードアップ減塩運動 県内で、講習会イベントなどの機会をとおして、減塩運動を推進。
7	高齢者の低栄養予防教室 高齢者が元気で地域活動に参加したり、自らの健康管理ができるように、低栄養予防の料理講習会及び講話などを開催。
事業名 ①	食育教室
期 日	通年(平成25年4月～平成26年3月)
場 所	各市町村集会所、学校、各施設等
活動内容・参加者等	減塩活動を中心にバランスのとれた調理講習の開催(味噌汁の塩分測定のため、参加者の各家庭の味噌汁を持参してもらう)
事業名 ②	県民大会でバランス食の提供
期 日	平成25年9月4日
場 所	青森県文化会館(リンクステーションホール青森)
活動内容・参加者等	県理事及び会員達が来場者を対象にバランス食及び減塩味噌汁を1,000食提供
事業名 ③	各種イベントに協賛しての食育活動
期 日	通年
場 所	青森市内の各会場
活動内容・参加者等	アップリートフェスタ、シニアフェスティバル、県歯科フォーラムにおいて、県産日を使った飲み物、菓子、バランス食等を提供
取組の具体的な手法や特徴的なこと	(県委託事業) 若者の食事調査結果を踏まえてのイケメンズヘルスマニュー作成中。 栄養士会主催のイベントにも常に参加・協力している。

13 青森県生活協同組合連合会

活 動 内 容	
1 食育活動の継続 (1) 産地交流、農作業体験、収穫体験の取組 (2) 親子でクッキング・コープで離乳食・料理教室・漬け物づくりなどの開催 (3) 食の安全に関する学習や出前講座の推進 2 重点的な取組内容	
事業名 ①	青森県生協連第29回生協大会の開催
期 日	平成25年11月21日
場 所	リンクステーションホール青森
活動内容・参加者等	講演 「TPP参加で食の安全は守れるか」 講師 安田 美絵氏(料理家・市民活動家・料理教室&持続可能な食の学校主宰) 出会いと交流の場 ・県産品の展示・試食・販売・県産材ひば製品の販売 ・健康チェックコーナー
事業名 ②	たべる・たいせつキッズクラブの実施
期 日	平成25年4月～平成26年2月末日
活動内容・参加者等	(1) 自宅でできる食育サポートプログラム(子どもと生協の通信活動)であり、様々な情報、メニュー、レシピ、クイズ等盛りだくさんの内容の教材が季節毎に年4回届く。 キッズ20名、サポーター7名 (2) キッズが家で料理等を作ったとき「お便りカード」に書いて生協に提出すると、サポーターから応援の返事が届く。 (3) 体験を通して食を知る(青森市・漁協の協力) 地引網体験9月21日、わかめの養殖体験11月30日、わかめの収穫体験2月22日(予定)
事業名 ③	生協ふれあいの森 植樹祭の実施
期 日	①平成25年5月26日、②平成25年6月9日
場 所	県内2か所 (①青森市眺望山「自然休養林」、②十和田市仙人平「蔦の森」)
活動内容・参加者等	(1) 牛乳パック回収運動で得た収益金で、「ひば」「ぶな」の苗木を購入し、青森森林管理署と三八上北森林管理署から借り受けた国有林に植樹。 (2) 山や木材のこと、山と海の関係、食との関係などを学習し植樹。自然観察も実施。

14 青森県生活研究グループ連絡協議会

活 動 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民を対象にした伝承料理講習会、栄養専門学校生を対象にした、郷土料理伝承会、児童館での食育交流会等を実施。(中南地域) ・こうじを活用した料理や、地元の農産物を使ったアイデア料理等を実演・展示(西北地域) ・公民館の食育講座、中学校教職員の研修とうで調理実習を指導(上北地域) 	
取組の具体的な手法や特徴的なこと	県内各地区生活研究グループ連絡協議会が、市町村や、地元の栄養専門学校、公民館、児童館、教育事務所等と連携して実施している。

15 一般社団法人 青森県調理師会

活 動 内 容	
<p>県民の健康増進を図るため、県内各地で多種多様な県産食材を使った健康料理講習会や調理師の資質の向上を図る調理技術研修会等を開催。</p> <p>1 調理師熟練者講習会の開催 2 調理技術研修並びに「フグ処理実技」講習会の開催 3 親子伝承料理講習会「県産食材を使って親子でクッキング」の開催 4 各種団体等への講師派遣による講習会の実施 5 「健康あおもり21」の推進 (1)「外食栄養成分表示店」推進活動の実施 (2)食の安全・安心推進活動の実施 (3)減塩料理の普及推進活動の実施 (4)食育の普及推進活動の実施</p>	
事業名 ①	郷土料理継承 親子料理教室
期 日	平成25年7月14日
場 所	アピオあおもり
活動内容・参加者等	親子で協力して料理教室をすることにより、親子のふれあいを図るとともに、食品衛生や食材の扱い方や、食事のマナー等も指導している。 参加者18名(9組)
事業名 ②	衛生管理講習会
期 日	平成25年7月18日
場 所	青森国際ホテル
活動内容・参加者等	保健所より講師を派遣していただき、食品衛生管理及び施設の衛生管理の研修会を実施。食の安全安心を第一に考え、毎年継続していきたい。 参加者33名
事業名 ③	フグ処理実技講習会
期 日	平成26年2月23日(予定)
場 所	アピオあおもり
活動内容・参加者等	青森県のフグ取扱い指導要項について学習するとともに、フグ処理技術の向上を図るために実技指導を行っている。 参加者募集中

16 青森県農業協同組合中央会

事業名 ①	小学校5年生用社会科副読本「いのちはぐくむあおもりの農林水産業」の発行
期 日	平成25年4月1日発行
活動内容・参加者等	小学校5年生の社会科で学習する「わが国の産業と国土のようす」について、本県の例を参考に学習してもらうための副読本と、教師用の指導書を作成(児童用15,400部、教師用1,800部)。小学校5年生全員に配布。
事業名 ②	「ごはんお米とわたし」作文・図画コンクール
期 日	平成25年7～12月
活動内容・参加者等	毎日のごはんのおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食についての思い出や、考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現してもらい、農業(特にお米やごはん食)を理解してもらうためにコンクールを実施。 ○対象: 県内全小・中学校 実施校129校 ○作文313点、図画133点
事業名 ③	「バケツ稲づくり」
期 日	平成25年4月～
活動内容・	バケツを使って稲を育てるという一連の作業をとおして、お米やごはん、稲作文化、農

参加者等	業、食料の大切さを理解してもらうために、「バケツ稲づくりセット」①種籾(肥料付)、②栽培マニュアル、③観察ノートを無償配布。 ○対象:全小学校(原則として5年生) 実施校58校 2,672セット
事業名④	JAふるさと市
期 日	平成25年11月9～10日
活動内容・参加者等	JAグループ青森、青森県漁業協同組合連合会、青森県森林組合連合会、(公社)青森県物産振興協会、あおり産品販売促進協議会主催の、「ぜ～んぶあおり大農林水産祭」に、JAグループ青森は「JAふるさと市」として出展し、消費者に対して県産農畜産物の安全性やおいしさをPRする試食販売会や、JA・協同組合の活動を理解してもらうためのPR活動を実施した。 ○場 所: 青森市「青森産業会館」 ○出店内容: りんご(生果)、りんごジュース、ながいも、にんにく、ごぼう、かぶ、長ねぎ、白菜、ゼネラルレクラーク、漬物、スイーツなどを販売

17 青森県JA女性組織協議会

事業名①	農業ふれあい教室
期 日	平成25年4～12月
活動内容・参加者等	地域の子どもたちに、農産物の栽培をとおして、作る楽しさと食べる喜びを感じてもらい、農業に対する理解と地産地消の啓もうを図るために、県内5JA女性部で管内小学校児童と一緒に植付けから収穫までの農業体験や、収穫した農産物を使った料理教室などを実施。 県内園児・小学生283名が参加。
事業名②	作文・かべ新聞コンクール
期 日	平成25年12月
活動内容・参加者等	農業ふれあい教室で農作業を体験した児童に作文・かべ新聞を書いてもらい、優秀者等を表彰。 応募作品数 作文:5小学校から16作品、かべ新聞:4小学校から6作品
事業名③	各JA女性部による地域に根ざした食育活動の展開
活動内容・参加者等	各JA女性部においても、食育活動の一環として、地元小学校と連携し、学校給食の食材として地場産物を納入したり、農作業や調理など、各種体験学習の受入を実施。
事業名④	米粉利用拡大セミナーの開催
活動内容・参加者等	消費量が低下している米について、新たな魅力を知ってもらうとともに食の大切さを伝えることを目的に実施。米粉事情についての講義、調理実演を実施し、参加者にはレシピや米粉のサンプル品を配布した。 母親・祖母世代の県内一般消費者および女性部員約150名が参加。

18 全国農業協同組合連合会青森県本部

活 動 内 容	
「安全・安心」な県産農畜産物への理解者づくりと消費拡大を図るとともに、「地域社会への貢献」に資するため、以下の食育活動に取組み農業や地場産農畜産物への親近感の醸成に努めました。	
1	紙芝居キャラバン：やさい花き課 県内の小学校低学年の児童を対象にトリオ・ザ・ポンチョスのトークによる「青森いきいきやさい紙芝居」を実施しました。

◆実施状況

実施月日	市町村名	学校名	備考
12月10日	黒石市	浅瀬石小学校	1～6年生 98名
12月16日	八戸市	城下小学校	1～2年生 88名
12月17日	弘前市	弘大附属小学校	1年生 103名
1月17日	黒石市	黒石小学校	1～2年生 63名
1月30日	八戸市	是川小学校	12年生 37名
計	3市	5校	389名



2 弁当の日（食育講座&料理体験）：やさい花き課

食と健康との密接な関りへの理解と県産やさいへの愛着をより深めるため、青森市の筒井南小学校6年生を対象に、薬膳インストラクターを講師に食育講座を開催するとともに、県産のやさい・米・肉・りんごを食材とした弁当作りを実施しました。

①実施月日：平成25年11月19・25・26日





3 父子「鍋」料理コンテスト：やさい花き課

作り手はいつもはお母さん…慣れない父と子による料理を通じ、コミュニケーション増幅と、県産やさいのPRを図るため、ながいも・にんにく・ごぼうを使用した「鍋」料理コンテストを開催。

①実施月日：平成26年2月22日

②場 所：アピオあおもり 調理実習室

4 食育体験（餅つき体験・バター作り体験）：販売企画課

実施月日	催事名	実施場所	内容	備考
6月22日	農畜物即売会	農協会館1F	餅つき	
7月20日	〃	〃	餅つき	
8月 9日	〃		餅つき	
9月20日	〃		餅つき、バター作り	杉の子幼稚園園児60名
10月18日	〃		餅つき、バター作り	杉の子幼稚園園児60名
12月14日	〃		餅つき	
27日	歳末市	農協会館1F	餅つき	
28日	〃	〃	餅つき	
29日	〃	〃	餅つき	

(1) 農協会館1Fロビーでの「農畜産物即売会」や「歳末市」およびJAサマーフェアにおいて、JA青森およびJA青森女性部の協力のもとに、子供達を対象に食育活動に取り組みました。

◆実施状況



慣れない餅つきに挑戦する杉の子幼稚園の子供達

む
達

(2) 食育体験学習会(於平内町、餅つき・バター作り)

11月25日に平内町の勤労青少年ホームにおいて、保育園の園児76名を対象に食育体験学習会を開催(前年度に続き2回目)しました。

①参加者総数:102名(うち園児76名)

②参加保育園:東和保育園 18名 / 平内中央保育園 15名 / 青空保育園 14名
口広保育園 14名 / 緑ヶ丘保育園 15名 【計 76名】

③実施内容:「餅つき」と「バター作り」体験

④実施機関・団体等(後援・協賛含む)

JA青森女性部(平内支部)・JA青森

平内町役場・青森県牛乳普及協会・JA全農あおもり・青森米本部(協賛)



バターの出来具合を確認する園児達



19 青森県青果卸売市場協会

事業名	親子収穫体験教室
期日	平成25年9月20日(土)
場所	黒石市沖揚平地区
活動内容・参加者等	当該事業に応募のあった小学生とその保護者計28名を対象に、黒石市沖揚平地区特産の高原野菜(大根、とうもろこし)について、収穫体験・試食、JAの選果作業の様子等の見学を実施し、生産現場から流通までの過程の理解促進と家庭における食事バランスガイドの普及・啓発に取り組んだ。

20 青森県水産物卸売市場協会

事業名 ①	「青森市中央卸売市場食育推進委員会」としての取組～青森地区～
事業名	夏休み親子市場体験会
期 日	平成25年7月27日
場 所	青森市中央卸売市場
活動内容 参加者等	24名(子ども12名、保護者12名)が参加し、市場内施設やせり売りを見学したほか、魚の捌き方教室、すいか食べ比べなどを行った。
事業名 ②	小中学校への食育・花育活動～青森地区～
期 日	(実施)
場 所	1 平成25年10月31日:青森市立浦町小学校(保護者27名)
参 加 者	2 平成25年11月14日:青森市立野内小学校 (児童10名+保護者10名+先生1名)
	3 平成25年11月21日:青森市立三内中学校(保護者10名)
	(予定)
	4 平成26年02月08日:青森市立筒井南小学校 (児童及び保護者合計30名程度)
活動内容	1 浦町小学校:「フラワーアレンジメント教室」 (社)日本フラワーデザイナー協会青森県支部から講師を招いて、フラワーアレンジメント教室を実施
	2 青森市立野内小学校:「学校訪問型料理教室」 (社)青森県栄養士会から講師を招き、①さんまのかば焼き②野菜のごま酢あえ③さつま汁④うさぎりんごを調理
	3 青森市立三内中学校:「フラワーアレンジメント教室」 (社)日本フラワーデザイナー協会青森県支部から講師を招いて、フラワーアレンジメント教室を実施
	4 青森市立筒井南小学校:「学校訪問型料理教室」 学校専属の主任栄養士が講師となり、料理教室を開催
事業名 ③	おさかな食育クッキング～弘前地区～
期 日	1 第49回 平成25年07月20日:東北女子大学 大人31名、子ども6名
場 所	2 第50回 平成25年09月07日:東北女子大学 大人28名、子ども7名
参 加 者	3 第51回 平成25年11月30日:東北女子大学 大人32名、子ども7名
	4 第52回 平成26年01月25日:東北女子大学 大人35名、子ども4名
活動内容	1 東北女子大学が講師となり、「メバルのアクアパッツア風」、「魚介と夏野菜のペスカトーレ」、「さざえと豆苗のサラダ」を調理。参加料:一人500
	2 東北女子大学が講師となり、「さんまの鳴門揚げ」、「秋鮭の炊き込みご飯」、「ほっき貝のお吸い物」を調理。参加料:一人500円
	3 東北女子大学が講師となり、「助宗たらこと真鱈白子のクッパ」、「むきさめのコチュジャン焼き」、「切り昆布を使った海鮮チャプチェ」を調理。参加料:一人500円
	4 東北女子大学が講師となり、「土鍋かき飯」、「真たらと豆腐のみぞれ鍋風」、「ヤリイカとわかめの柚子みそ和え」を調理。参加料:一人500円
事業名 ④	施設見学会「魚市場を見に行こう」～五所川原地区～
期 日	平成25年年9月28日
場 所	丸中五所川原中央水産株式会社(卸売市場・会議室)
参 加 者	児童35名
活動内容	水産会社社員の説明により、市場の魚介類の競り売りの様子や、マグロ解体等を見学し、流通の仕組みや地元で水揚げされる旬の水産物について学習をする。また、地域市場の現状を知ってもらう。 市場で販売されている旬の魚等の朝食をとりながら、食事のマナーについても勉強。

21 一般社団法人 青森県りんご対策協議会

事業名	若年層を対象とした消費宣伝対策事業
期 日	平成25年11月～実施中
場 所	新潟県、北陸、京都府、滋賀県、兵庫県、四国4県、九州
活動内容・参加者等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習用下敷6万枚、消しゴム3万個、定規3万枚を作製し、全国各地の青果会社を通じて小学校等に配布し、青森りんごの学習用として活用 ・近年果実離れが著しい若年層への青森りんごの普及及び消費拡大のため、全国各地の小学校、幼稚園、保育園へ、学習用、給食用として青森りんごを提供 <p>青森県農林水産部りんご果樹課が実施する小学校での出前授業にミスりんごが参加し、青森りんごの健康への効果等を説明。</p>

22 公益財団法人 青森県りんご協会

事業名	青年部 関西葉とらずりんごPR即売事業
期 日	平成26年1月24日(金)
場 所	毛馬コティ幼稚園(大阪市都島区)
活動内容・参加者等	幼稚園児及び保育しら130名にりんご健康作用を説明した。
取組の具体的な手法や特徴的なこと	<p>大果大阪青果(株)広報部都連携を図り、りんごの健康効果、皮むき体験、美味しいりんごの選び方などを実施した。</p> <p>終わりに県大阪情報センターの協力で、「決め手くん」と記念写真を撮った。</p>

23 青森県漁業協同組合連合会

活 動 内 容	
	<ol style="list-style-type: none"> 1 青森県産の鮮魚介藻類の品質、衛生管理面の向上に努める。 2 適正な産地表示にもこれまで以上に取り組み、消費者との信頼関係を構築する。 3 青森ほたてのPRと、消費拡大を図るための宣伝活動を継続的に実施する。 4 青森ほたての生産情報、料理等のDVDを製作し、各拠点での放映のほか、貸出等を行い、普及啓発を行っていく。 5 ホームページでの「青森のお魚」「お魚クイズ・ことわざ・漢字」や「ネット販売」により、魚への知識向上と消費者への魚食普及を図る。
取組の具体的な手法や特徴的なこと	漁協、関係団体と連携を密にし、本県水産物のさらなる普及を図る。

24 青森県漁協女性組織協議会

活 動 内 容	
	<p>各地の漁協女性部の活動を支援。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 部員を対象とした活動への支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地元で獲れる多種多様な魚の料理教室(郷土料理の伝承) (2) 子どもの成長を願う行事での料理教室(伝統料理の伝承) 2 学校を対象とした活動への支援 <p>小学校、中学校、高等学校での料理教室(魚離れ対策、魚の料理法の普及)</p> 3 一般県民を対象とした活動への支援 <p>各イベントに出店参加して、加工品の販売、魚食普及PR</p>
取組の具体的な手法や特徴的なこと	<p>地産地消、魚離れ対策、一次二次加工による付加価値をつける魚の料理法、伝統料理、郷土料理の伝承。</p> <p>今後は保健所とも連携したい。</p>

25 八戸水産加工業協同組合連合会

活 動 内 容	
1 「はちのへ水産加工品展示会」に、食育コーナーを設置(商品の陳列、パネル掲示など)。 2 組合傘下の企業に対し、食育推進に生かせる商品開発を奨励。	
事業名 ①	「はちのへ水産加工品展示会2013」に協力(後援)
期 日	平成25年7月10日
場 所	八戸プラザアーバンホール
活動内容・参加者等	水産加工業者15社が加工品約300点出展。全国からバイヤーら約650人来場。国内有数の水産都市八戸の商品の展示及び加工技術を紹介することにより、八戸からの食育ツールをPR。
事業名 ②	「プロテオグリカン・MOT&ビジネス化講習会」を推奨
期 日	平成25年12月19日
場 所	八戸プラザホテル
活動内容・参加者等	サケの鼻軟骨から精製されたプロテオグリカンに係る講習会を推奨し、商品開発担当者に多用化する水産品について啓発。
事業名 ③	「産学共創の場in八戸」開催に協力(後援)
期 日	平成26年2月19日(予定)
場 所	八戸市水産会館
活動内容・参加者等	科学技術振興機構(復興促進センター)の「産学共創の場in八戸」(全国から研究者10名が集まり提案)に協力。産学マッチングにより、水産業の革新的基盤技術の創出と産業競争力強化を目指す。
事業名 ④	第5回「日本さかな検定」八戸会場での開催に協力(後援)
期 日	平成26年6月8日(予定)
場 所	八戸市内の会場
活動内容・参加者等	昨年は全国7会場で3,100人が受験。今年八戸会場で開催すると仙台以北初。学生等若い世代にも容易に受験して頂き、魚食文化や水産物に関心を深めさせることで食育を推進するのが狙い。

26 公益社団法人 青森県物産振興協会

事業名 ①	「青森の食の魅力」を発信する青森県物産展等の開催
期 日	平成25年4月～平成26年3月
場 所	県内外の百貨店、量販店、当協会直営催事スペース(新青森駅内)
活動内容・参加者等	本県が誇る安全・安心な農林水産物及びその加工品を、県内外の消費者に広く紹介するために、物産催事を開催し、「青森の食の魅力」を発信した。
事業名 ②	県内産直施設や郷土料理・県産農林水産品などの情報誌「マルシェde青森」の発行
期 日	平成26年2月
発行部数	35,000部
活動内容・参加者等	郷土料理、安全・安心な県産農林水産品や県内産直施設を、県民局エリアごとに掲載したガイドブック「マルシェde青森」を作成し、県内の観光案内所や掲載施設等約100か所で配布した。

27 株式会社さくら野百貨店

事業名 ①	シニア野菜ソムリエの「野菜・果物食べくらべ教室」
期 日	各月各店(青森店、弘前店)にて各1回ずつ開催
場 所	さくら野青森店、さくら野弘前店
活動内容・参加者等	各店舗の顧客を対象(20～40名)に、旬の野菜・果物の食べくらべや保存方法、調理方法を紹介し、野菜・果物の魅力を多くの方へ広げる活動を実施
事業名 ②	シニア野菜ソムリエの「野菜・果物食べくらべ教室」(外部への取組として)
期 日	3月、7月 各1回
場 所	大和証券青森支店セミナー
活動内容・参加者等	上記の顧客を対象(30名)に旬の野菜・果物の食べくらべや保存方法、調理方法を紹介し、野菜・果物の魅力を多くの方へ広げる活動を実施
取組の具体的な手法や特徴的なこと	地方の産地・取引先等からの協力もいただき実施
備 考	平成26年度も実施予定

28 株式会社ユニバース

活 動 内 容	
1	食育料理教室の開催(2ヶ月に1回) (平成26年1月31日現在 6企画8回開催)※2月に2企画実施予定
2	親子大豆種まき・収穫体験開催
3	嶽きみ収穫体験開催
4	上北農産加工工場見学開催
5	毎月「おいしい・ヘルシー簡単食育レシピパンフレット」(厳選6品掲載)を制作し、全店にて配付
6	チラシ上で、朝食・お弁当特集を実施(年2～3回)
7	地産地消の取り組み:県産品フェアを実施(9月に32店舗で実施)
8	食品残渣の堆肥化による野菜(エコごぼう、エコ長芋)の販売(21店舗)
9	東バイパス店に県知事をお迎えし、青森県産品のPRを実施(平成25年9月14日)
事業名 ①	「料理教室」の開催
期 日	2ヶ月に1企画(平成26年1月31日現在、6企画8回開催)
場 所	八戸市、青森市、むつ市
活動内容・参加者等	各メーカー様の商品を活用した料理教室を開催し、食育についての講習も行った。親子を対象とした企画もある。1回で約20名が参加。
取組の具体的な手法や特徴的なこと	食品メーカー様とタイアップして開催するほか、子どもたちの身近な食品(お菓子・ケーキ)を通して「食の安全・安心」を学ぶなど、効果的に活動を展開。 「こどもが作るお弁当教室」と題したお子様主体の教室も初開催。
事業名 ②	「親子大豆種まき・収穫体験」の開催
期 日	種まき:平成25年6月2日、収穫:9月7日
場 所	七戸町
活動内容・参加者等	6月農家の畑を一部借りて大豆の種まきを行い、9月成長した枝豆を収穫。(30組60名様)収穫後は枝豆の試食で育てる楽しさを味わえました。
事業名 ③	「嶽きみ収穫体験」の開催
期 日	平成25年9月1日
場 所	弘前市の岩木山麓
活動内容・参加者等	弘前で有名な嶽きみの収穫時期に親子25組を招待したが、前日の豪雨で22組のみ参加。採れたての嶽きみを生で食し、甘さを実感。

事業名 ④	「おいしい・ヘルシー簡単食育レシピパンフレット」の製作、配付
期 日	毎月発行
場 所	ユニバース全店
活動内容・参加者等	むつ市在住管理栄養士野呂浩子先生監修によるパンフレットレシピに、減塩調理・丈夫な体づくりのできるバランスのよいメニュー提案など啓蒙活動を掲載しています。

29 株式会社マエダ

活 動 内 容	
	<ol style="list-style-type: none"> 1 地元の食材を収穫し、調理方法を学び、食する『〇〇を喰らう』を開催 (2013年は各回18-60名の参加で8回開催) 2 チラシに毎週『食育マンガ』を連載。 3 青森県知事をガーラモール店にお迎えし、青森県産品のPRを実施。 4 あおもり食育サポーター登録者8名。 5 『むつ市のうまいは日本一』セールの実施 6 校外学習での店舗見学への協力 地域の小学校の職場見学を積極的に支援。 7 お弁当の日応援 むつ市第二田名部小学校のお弁当の日に協力。調理実習に卵とウィンナーを提供。 お弁当の日当日は、全生徒をお弁当と一緒に撮影し、マエダ本店にパネル展示。 展示した写真は後日全生徒に配布し、お弁当作りを楽しいこととして記憶してもらうことに協力。 8 メーカーとタイアップし、料理教室を年12回開催、約200名参加。 9 従業員向けの料理教室などを通じての社内食育。 店長向け(店長が自ら仕入れて、旬の魚料理を作る会)から新入社員向けまで、階層に合わせた食育を実施し、お客様への提案力の向上を図っている。
事業名 ①	地元の食材を収穫し、調理方法を学び、食するイベント『〇〇を喰らう会』
期 日	1 脇ノ沢のタラを喰らう
場 所	平成25年2月16日、マエダ本店、60名参加(成人対象)。
活動内容・参加者等	脇野沢名産のタラを脇野沢連合婦人会の方々が調理し、提供。 こっこ汁、とも和え、ささめ煮、こあえ等10を超えるタラ料理を食べて頂く。
	2 風間浦のアンコウを喰らう
	平成25年3月23日、マエダ本店、39名参加(成人対象)。 風間浦名産のアンコウを、風間浦の駒峰商店の協力で調理し、提供。 鍋、雑炊、とも和え等地元ならではの食べ方を紹介。
	3 日本酒と旬の料理で舌づつみ
	平成25年4月20日、関の井酒造、28名参加(成人対象) 地元の酒蔵を見学し、日本酒製造過程を学習。 その後、日本酒と旬の天ぷら等を食する。
	4 山菜を喰らう
	平成25年5月18日、薬研溪流の山、23名参加(親子含む) 地元のガイドと共に山菜を収穫。山菜の見分け方も学習。 収穫後、様々な下北の山菜料理を食していただく。 山菜取りは、体力別にコースわけ、親子から沢山採りたい人まで楽しめた。
	5 海峡サーモンを喰らう
	平成25年6月23日、海峡サーモン祭り会場他、23名参加(成人対象) 海峡サーモンを養殖する北彩漁業生産組合様の案内で、海峡サーモンを知り、食していただく。
	6 下北自然の家でハイキング&バーベキュー

	<p>平成25年7月27日、むつ市下北自然の家、26名参加(親子対象) 下北の自然と食材を堪能していただくイベント。 自然のウォータースライダー体験もあり。</p> <p>7 親子でアイスとバターを作ってみよう 平成25年8月24日、マエダ本店、18名参加(親子対象) ミルク工房ボン・サーブから講師を迎え、アイス・バターづくり。</p> <p>8 きのを喰らう 平成25年10月5日、薬研溪流の山、40名参加(親子含む) むつキノコの会の案内で、きのこ採り。 体力別にコースわけ</p>
事業名 ②	『食育マンガ』のチラシ掲載
期 日	週1回
場 所	週末チラシの右下
活動内容・参加者等	チラシ発行時の時節にあった内容を4コマまんがにし、行事や食のいわれを伝える等している。
事業名 ③	県産品愛用キャンペーンに合わせた県産品フェアの開催
期 日	平成25年9月15日～
場 所	マエダガーラモール店他
活動内容・参加者等	ミスりんごあおもりや、知事にも来て頂き、県産品をお客様にアピールした。 決め手くんも来店し、子供達にも県産品をアピール。 青森県産品愛用応援キャンペーンの景品への応募は3,017通。
事業名 ④	『むつ市のうまいは日本一』セールスの開催
期 日	平成25年9月、11月
場 所	9月マエダ本店 11月マエダガーラモール店
活動内容・参加者等	むつ市の産品を催事場に集め、試食販売、実演販売などで魅力をPR。 PRキャラクターむちゅらんも登場し、子供達にもアピールした。
事業名 ⑤	第2田名部小学校お弁当の日応援
期 日	平成25年11月11日
場 所	むつ市第2田名部小学校、マエダ本店
活動内容・参加者等	お弁当の日への協力 1 お弁当の日に向けた調理実習への卵とウィナーのプレゼント。 2 お弁当の日の材料を購入する前週に、『お弁当材料』が見つけやすくなるよう売場表示を工夫。 3 お弁当の日当日に、学校を訪問し全生徒のお弁当を持った写真の撮影。 4 撮影した写真をマエダ本店で展示することによって、お弁当の日を学校外にもアピール。 5 展示した写真を焼き増しし、全校生徒にプレゼント。
事業名 ⑥	お客様向け『料理教室』の開催
期 日	通年
場 所	青森市、むつ市
活動内容・参加者等	食品メーカー様の商品を活用した料理教室を開催。親子対象の企画もある。 1回の定員は20名以下が多い。 例) バレンタインデー前の1月26日、むつ市と青森市で、親子手作りチョコレート教室を開催。2会場で、34組の親子が参加。 アピオ青森では、明治製菓が材料提供と運営協力、下北文化会館ではロッテが材料提供と運営協力で実施した。

30 株式会社イトーヨーカ堂 青森店

活 動 内 容	
1 チラシに「イトーヨーカドーの食育」と題して、食育について関心を持ってもらえるような各種イベントを開催。 2 地元業者の売場による県産品フェアの開催や、青果、鮮魚、精肉売場の仕入れも県産品を中心に仕入れ、県産品の愛用や「地産地消」への取組を実施。	
事業名 ①	地元業者の出展による県産品フェア
期 日	平成25年5月15日～19日、9月11日～16日 2回
場 所	イトーヨーカ堂青森店 催事場
活動内容・参加者等	地元業者の方や生産者の方が集まり、地産地消の取組を実施した。農協や漁協との連携で、地産地消の普及啓発をしたい。
事業名 ②	地場野菜コーナー展開
期 日	平成25年7月～
場 所	イトーヨーカ堂青森店 青果売場
活動内容・参加者等	県産品商品を集めて、地場野菜コーナーをスタート。生産者の方の御協力を頂き、常時売り場にて地産地消の取組を実施。

31 イオンリテール株式会社 イオン青森店

活 動 内 容	
昨年度に引き続き、事業を実施していく。 1 イオンホームページで「Let's食育！」を掲載(URL http://www.aeonretail.jp/kodawari/shokuiku/)。 2 下期「青森めじゃー市」を開催し、地産地消と食育の推進を実施。 3 青森の県産品の「安全・安心」をチラシ訴求するとともに、試食販売を実施。	
事業名 ①	ファイブ・ア・デイ協会による園児向け食育プログラム「たべるおはなし教室」開催
期 日	平成25年10月3日
場 所	イオン青森店
活動内容・参加者等	ファイブ・ア・デイ協会より専門の食育インストラクターを派遣していただき、青森山田保育園の園児20名に園児のための食育プログラムを実施しました。 さまざまな食べものの特徴を学習したり、野菜・果物売場で実際にカレーの材料を買ってみました。 好き嫌いせずに食べることが大切だと学びました。
事業名 ②	イオンチアーズクラブによる青森県のにんにく収穫体験
期 日	平成25年6月29日
場 所	青森県三沢市 (株)青北建設 にんにく農場
活動内容・参加者等	自分の住む青森県の特産品「にんにく」について学習しました。 青森県はりんごが有名ですが、実はにんにくも生産量日本一だということがわかりました。 また、青森のにんにくをブランド化するため、手間と努力を惜しまずに育てていることもわかりました。 みんなで慎重に収穫をしたあと、とりたてのにんにくを電子レンジで温めて食べました。 イオン青森チアーズクラブとイオン七戸十和田チアーズクラブの合同参加で、とてもおいしく楽しい1日でした。
今後取り組みたい事項	1 現代の若者向けメニューの提案。 2 地域の小学生を対象に、イオン独自の食育プログラムを使用した食育勉強会を、実施する方向で計画。

32 紅屋商事株式会社

事業名	食育コミュニケーション活動
期日	毎月19日を含む週を食育週間として(8月12月を除く)、その週の土曜日に食育大試食会を実施。(変動する場合あり)
場所	カブセンター、バニーマート全店(青森新町店は除く)
活動内容・参加者等	<p>1. 毎月19日を含む週を食育週間とし、その週の土曜日に大試食会を実施。 (①11時～、②15時～) 参加者:食育コミュニケーターの資格を持った従業員を中心とした店舗従業員 (日本食育コミュニケーション協会様より指導)</p> <p>2. 食育コミュニケーション活動の概要 (1)毎月テーマを設け、そのテーマに沿った一汁三菜のメニュー提案により、豊かな「食」に対する啓蒙活動の実施。 (2)食育活動における一汁三菜やレシピ提案を実施する際は、食事バランスガイドや食物アレルギー原因物質の提示を行い、それについての説明を実施。 (3)使用する食材は極力、その時の旬の生鮮食材、県産食材(ない場合は近県産または国産)を使用。 (4)調味料は合成添加物・合成着色料無添加のものなどをなるべく使用する。</p> <p>3. 食に関する知育活動 (1)あおり食育サポーター様から食育グッズをお借りし、それを使用した知育活動の実施。 (2)店舗独自で手作りの知育グッズによる知育活動の実施(例、野菜350gってどれくらい?、豆掴みゲーム、食育塗り絵、など)。 (3)メーカー様ご協力の元、店舗での食育教室実施。 (例、マヨネーズ教室、きのこについて、トマトの栄養について、など) (4)店舗における5ADay教室の実施。 地域の小学生(2～3年生)を店舗に招き、5ADay協会の講師指導の元5ADay教室を実施。 (5)校外学習でのお仕事見学ツアー実施。 地域の小学校の校外学習の一環で、職場見学・パン作り体験の実施。</p> <p>4. 社外機関との連携。 (1)食育イベント会社「ベジスタ」様ご協力のもと、農場での収穫体験・料理教室の実施。(6月) (2)あおり食育サポーター研修会にて自社の取組を紹介させて頂く(9月) (3)食育の日の食生活改善推進員様とのコラボレーション(11月～)</p> <p>5. 地産地消の取組 (1)青森県産品愛用応援キャンペーンとのコラボレーション(9月) 全店で「地産地消」をテーマに、食育活動に絡めて県産食材・県産商品の推奨販売を実施。 (2)カブセンター大野店に三村知事をお迎えし、県産品のPR活動を実施(9月)</p>
取組の具体的な手法や特徴的なこと	<p>1. 展開方法においては昨年と同様。 2. 今期は年間を通して「減塩(適塩)」を提案し続けた。 (1)青森県の平均寿命が最下位だということをお知らせし、その対策として減塩(適塩)についてのPOPやコミュニケーションを実施。 (2)メニュー提案による具体的な減塩方法の提案 ・お酢の活用による減塩(6月) ・スパイスの活用による減塩(7月)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・出汁の活用による減塩(10月) ・減塩醤油について(11月) ・ケチャップを活用した減塩(1月) <p>その他の月はカリウムを多く含む野菜を摂取することで減塩につながるということを提案し、野菜摂取を啓蒙。</p> <p>(3)減塩アンケートの実施</p> <p>10月より食育活動時に減塩アンケートを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平均寿命最下位の認識 ②減塩に対する意識調査 ③当店の減塩提案の認識についての調査 ④減塩メニューについての感想
今後取り組みたい事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社外団体との連携強化 (詳しくは昨年と同様) 2. 減塩(適塩)提案に加え、和食についての啓蒙 3. あおもり食命人事業との連携強化
備考	<p>1. 各種表彰について</p> <p>(1)農林水産省主催の食と農林漁業の食育優良活動表彰において、「消費・安全局長賞」を受賞(11月)</p> <p>(2)日本食育コミュニケーター活動発表全国大会において、「食育コミュニケーション大賞」、「地域密着大賞」を受賞(11月)</p> <p>(3)フード・アクション・ニッポンアワード2013において、「流通部門 優秀賞」を受賞(12月)</p> <p>2. 今後の活動</p> <p>今期は減塩に焦点を当てて活動してきた結果、お客様の意識もある程度は高まってきていると感じる。</p> <p>しかし、アンケートの結果を見ると男性や20代、30代(女性も含む)への働きかけが弱いことに気づく。</p> <p>したがって、子育て世代や、一人暮らし世代(大学生など)、男性への理解が深まるような取組を強化していきたいと思う。それにあたり、他団体様と協力してアプローチしていきたい。</p>

33 一般社団法人 青森県歯科医師会

事業名	歯—トフル・トーク in AOMORI
期日	平成25年10月6日(日)
場所	青森県歯科医師会館
活動内容・参加者等	一般県民対象の「お口の健康」についてのイベント内で、食育コンシェルジュ森山先生の講演、歯によるレシピの紹介、試食、栄養指導、相談を実施。
取組の具体的な手法や特徴的なこと	食育コンシェルジュ、青森県栄養士会、青森県食生活改善推進員連絡協議会に御協力頂いた。
備考	平成26年度は日程がとれないため中止。代替イベント(小規模)を検討中。

34 公益社団法人 青森県看護協会

活 動 内 容	
地域において一般県民を対象に生活習慣病予防と食育の推進に係る活動を実施。	
1 看護の日・看護週間事業「1日まちの保健室」における活動 5月12日を含む1週間に、6カ所の支部及び会員所属の病院が健康づくりを盛り込んだイベントを開催している。	
2 県内3カ所「まちの保健室」での定期的健康相談活動 青森市浅虫:道の駅「ゆ～さ浅虫」34日間 鱒ヶ沢町:海の駅「わんど」30日間 八戸市:「はっち」50日間	
3 県内6支部の管内市町村における「健康まつり」等をとおしての健康づくり活動	
取組の具体的な手法や特徴的なこと	看護協会会員が県内各地で、県民の健康づくりのための健康相談活動を展開している。

35 公益社団法人 青森県栄養士会

事業名 ①	「無料栄養相談」あおもり栄養ケア・ステーション
期 日	平成25年度
活動内容・参加者等	県民を対象に、無料で栄養相談や食育相談を実施。 電話 毎週火曜日10時～15時、HP 随時
事業名 ②	「家庭料理学校」あおもり栄養ケア・ステーション
期 日	平成25年11月14日
場 所	青森市立野内小学校
活動内容・参加者等	青森市中央卸売市場からの依頼で、県産の食材を使った調理実習。
事業名 ③	健康啓発等事業 1 (健康教育講座)
期 日	平成25年11月16、17日
場 所	鶴田町 鶴遊館 「今日から、おいしく減塩栄養！！」
活動内容・参加者等	健康あおもり21推進を目的に、一般人に対し、食生活を見直し、生活習慣病予防のため、塩分フードモデルの展示やリーフレットの配布をし減塩を促した。 味噌汁の塩分濃度の測定。ほか、野菜100gの展示。参加者220名
事業名 ④	健康啓発等事業 2 (八戸市環境・健康フェスタ2013)
期 日	平成25年9月29日
場 所	八戸市公会堂
活動内容・参加者等	「健康の秘訣！減塩食とは」というテーマで、塩分フードモデルの展示やリーフレットの配布をし、減塩の大切さ、減塩食の工夫、野菜摂取、適正体重についての栄養相談を行った。参加者219名
事業名 ⑤	健康啓発等事業 3 (みんなの消費生活展)
期 日	平成25年11月16、17日
場 所	むつ市役所
活動内容・参加者等	「健康あおもり21」普及啓発のため、減塩をメインテーマに食事指導。減塩フードモデル展示、食事のバランスについて啓発、アンケートの実施など。参加者160名
事業名 ⑥	健康啓発等事業 4 (十和田南公民館まつり)
期 日	平成25年10月27日
場 所	十和田市南小稲集会所
活動内容・	「糖尿病予防～糖尿病を知って楽しく予防しよう！」

参加者等	・栄養相談、パネル展示、「健康あおもり21」アンケート、「減塩エーヨー！！」アンケートの実施 ・フードカードから1食の献立を選んでもらい、適正なエネルギー量とバランスをアドバイス。減塩の試食コーナー等、減塩に対する知識の普及。
事業名 ⑦	健康啓発等事業 5 (みんなでスポーツ・アップリートフェスタ)
期 日	平成25年9月8日
場 所	マエダアリーナ(青森市)
活動内容・参加者等	身近な材料で手軽に作れるクッキーの配布、スポーツマンに対する栄養相談、塩分フードモデル展示、減塩タペストリー、減塩のぼりの提示、「健康あおもり21」アンケート調査 参加者100名
事業名 ⑧	健康啓発等事業 6 (黒石市民健康まつり)
期 日	平成25年11月16、17日
場 所	スポカルイン黒石
活動内容・参加者等	健康あおもり21の推進 減塩のぼり、減塩タペストリーの掲示、栄養クイズ、アンケート 参加者400名
事業名 ⑨	健康啓発等事業 7 (弘前市民の健康まつり)
期 日	平成25年7月6、7日
場 所	弘前総合保健センター
活動内容・参加者等	健康あおもり21の推進 減塩のぼり、減塩タペストリーの掲示、栄養クイズ、アンケート 参加者400名
事業名 ⑩	健康啓発等事業 8 (青森市油川市民センターまつり)
期 日	平成25年10月12、13日
場 所	青森市油川市民センター
活動内容・参加者等	栄養相談、体脂肪測定、パネル展示、減塩のぼり、塩分フードモデル展示など 参加者100名
事業名 ⑪	健康啓発等事業 9 (2013たばこと健康フェア)
期 日	平成25年9月8日
場 所	サンロード青森
活動内容・参加者等	栄養相談、体脂肪測定、パネル展示、減塩のぼり、塩分フードモデル展示など 参加者24名
事業名 ⑫	歯ートフルトーク
期 日	平成25年10月6日
場 所	青森県歯科医師会館
活動内容・参加者等	歯科医師会に協力。減塩タペストリー展示、塩分フードモデル展示、栄養相談。
事業名 ⑬	「アスリートプログラム」 あおもり栄養ケア・ステーション
期 日	平成25年度
場 所	マエダアリーナ(青森市)
活動内容・参加者等	スポーツ選手を対象に食事栄養診断と栄養相談

36 社会福祉法人 青森県社会福祉協議会

活動内容	
<p>1 会議や研修会を通じて、福祉専門職やボランティア、地域住民等に対して食事の楽しさや大切さ、栄養管理等についての情報提供を行うとともに、食育の啓発を実施。</p> <p>2 市町村社会福祉協議会で実施するサロン活動やお食事会、配食サービス等について、栄養管理、地産地消の観点からの情報提供、研修等を実施。</p>	
取組の具体的な手法や特徴的なこと	<p>既存の事業に、食育の視点を加えながら実施することにより、効果的に食育を促進。</p> <p>本会では、一人暮らし等の高齢者の安全を見守る福祉安心電話サービスを実施しており、こうした地域の繋がりを促進するために実施している配食サービスやお食事会などの食事を通じた交流の場を活用して、食事への意識付けを行っていききたいと考えている。</p>
今後取り組みたい事項	<p>1 食を通じた地域の繋がりを深めるためにこれまで実施してきた食事会やサロン活動における食の提供について、食生活改善推進員の皆さん等、地域で食育に取り組んでいる方々との連携を図りながら、地元の食材等を活用し、栄養管理に気を配った手づくりの食事の提供を取り入れていく必要がある。</p> <p>2 また、日々の食事に対しても、高齢者自らが栄養管理等の食育に対する意識を高める必要があることから、食事に対する知識を得る場を提供する必要がある。</p>

37 社団法人 青森県保育連合会

事業名 ①	給食部会の開催
期 日	平成25年度:4回開催
場 所	青森市 県民福祉プラザ
活動内容・参加者等	<p>部会員 15名</p> <p>各支部から選出された部会員で「給食部会」を設置。日常の給食業務等の課題について話し合う。</p> <p>また、青森県栄養士会参与・管理栄養士の鶴賀晃氏を講師に迎えて、「保育所給食における食物アレルギー防止」の学習会をで開催した。</p> <p>平成26年度「健康長寿県プロジェクト」の一環として、「保育所子ども元気スリムプラン」に向けて準備態勢を整える。</p>
事業名 ②	北海道・東北ブロック保育研究大会の開催
期 日	平成25年7月11日～12日
場 所	青森市 ホテル青森・リンクステーションホール青森
活動内容・参加者等	<p>参加者620名。</p> <p>「家庭や地域との連携による食育の推進」分科会で、研究発表を行う。</p>
事業名 ③	給食研修会の実施
期 日	平成25年10月8日
場 所	青森市 ホテル青森
活動内容・参加者等	<p>参加者330名。</p> <p>講演 「保育園におけるアレルギー対応」 講師 日本保育園保健協議会 会長 遠藤 郁夫氏</p> <p>講演 「五感ではぐくむ子どもの心 ～食ることとだすこと～生きる原点が保育の原点～」 講師 尚絅学院大学総合人間科学部子ども学科 教授・歯科博士 岩倉 政城氏</p>
備 考	来年度以降も継続して活動を実施し、関係機関との協力の下に子どもたち、保護者への「食育」の推進を図り肥満防止保育に取り組む。

38 国立大学法人 弘前大学 農学生命科学部

事業名	関連する専門教育科目全般
活動内容・参加者等	専門教育科目において、食育に関する意識を持てるよう、講義を行っている。 (例:農学生命科学部概論Ⅰ・Ⅱ、作物生理学、食品安全学、他)

39 学校法人 青森田中学園 青森中央短期大学

1 公開講座での食育実践実施

事業名 ①	心つなぐおばあちゃんの郷土料理
期 日	平成25年10月12日
場 所	本学 調理実習室
活動内容・参加者等	一般の方を対象に昔から伝えられてきた青森県の郷土料理の調理実習を実施した。
事業名 ②	クリスマス親子クッキング
期 日	平成25年12月14日
場 所	本学 調理実習室
活動内容・参加者等	園児・児童とその保護者を対象に、クリスマスをテーマとした親子で楽しめる内容の調理実習を実施した。
取組の具体的な手法や特徴的なこと	学科の特性を活かし、参加者が楽しみながら調理体験を行い、知識や技術の習得とともに講座を通して食への興味・関心をもつきっかけになるような内容としている。
備 考	来年度以降も継続して活動を実施していきたい。

2 教員が出前講座など依頼された研修会で食育の普及活動を実施

事業名 ①	保育園での食育のあり方ー子どもの食生活の現状と食育の必要性ー
期 日	平成25年9月18日
場 所	グランドサンピア八戸
活動内容・参加者等	子どもの食生活の現状や改善するためにどのような食育を実践したらよいのか等について保育園の栄養士・調理員を対象に講話を行った
事業名 ②	体内時計と食事
期 日	平成25年10月2日
場 所	沖館市民センター
活動内容・参加者等	どうして規則正しい生活が健康によいのか、どのタイミングでどの位食べたらいいかについて一般対象に講話を行った。
事業名 ③	箸の使い方と食べものを3色にわけてみよう
期 日	平成25年10月5日
場 所	五所川原市七和保育園
活動内容・参加者等	園児とその保護者対象に箸の正しい使い方と三色食品群について、参加者と一緒に実践した。
事業名 ④	糖尿病の食事のポイントについて
期 日	平成26年1月25日
場 所	むつ市かさいまい館
活動内容・参加者等	糖尿病と食事のポイントについて講話を行った。
事業名 ⑤	親子健康教室
期 日	平成26年1月25日
場 所	八戸市立島守中学校

活動内容・参加者等	中学生とその保護者対象に成長期の望ましい食生活について講話を行った。
事業名 ⑥	五所川原市連合PTA母親委員会研修会
期 日	平成26年1月31日
場 所	五所川原第一中学校
活動内容・参加者等	命を大切に作る心を育むをテーマに体力作りと食事の関係について講話を行った。
取組の具体的な手法や特徴的なこと	本学教員の専門性を活かしながら、参加者が興味を引くテーマ設定を行い、食生活や食習慣について学ぶことができる内容としている。
備 考	来年度以降も継続して活動を実施していきたい。

3 平成25度 青森県ライフステージに応じた食育活動推進業務（県委託業務）

事業名 ①	あおもり食育サポーター事務局による食育活動
申込先別 依頼件数	幼稚園・保育園・子育て支援センター 126件 小学校・中学校・高校 43件 一般・その他 42件 合計 211件（平成26年1月20日現在）
活動内容	あおもり食育コンシェルジュ等が、幼児から一般の方対象に青森県全域で食育活動を行った
事業名 ②	あおもり食育シンポジウム～つながろう！あおもりの食育～
期 日	平成25年9月29日（日）
場 所	青森中央短期大学
参加者・内容	参加者：あおもり食育サポーター及び活動申込団体関係者 内容：基調講演及びパネルディスカッション 各職域での食育事例と職域間の連携について
事業名 ③	平成54年度あおもり食育サポーター地区別研修会
日時・場所	東青地区：平成26年2月27日（木）13:30～15:30 アピオあおもり 中南地区：平成26年2月26日（水）13:30～15:30 平賀公民館 三八地区：平成26年2月22日（土）13:30～15:30 八戸市福祉公民館 西北地区：平成26年2月28日（金）13:30～15:30 五所川原市中央公民館 上北地区：平成26年2月21日（金）13:30～15:30 三沢市公会堂 下北地区：平成26年2月20日（木）13:30～15:30 下北文化会館
参加者・ 内容（予定）	参加者：あおもり食育サポーター 内容：子ども向けクッキング活動の支援のポイント（調理実習）及び交流会

4 その他

事業名 ①	翔麗祭
期 日	平成24年9月15～16日
場 所	青森中央短期大学 1号館1階
活動内容・参加者等	本学学園祭において食育教材の展示や食育クイズなどを実施した。
事業名 ②	産学官共同による「学生による地産地消弁当の考案」
期 日	平成25年5月～9月
場 所	青森県内
活動内容・参加者等	本学学生が青森県産品を使用した地産地消弁当を考案し、その販売を企業が行った。
事業名 ③	あおもりde Mori-Mori Kitchen
期 日	平成25年5月～平成25年6月

場 所	青森県全域(テレビ放送)
活動内容・参加者等	本学学生による青森県産米を使ったレシピ考案とテレビ放送でレシピの紹介を行った。(青森県米本部と青森放送と共同企画)
事業名 ④	アピオスを使ったレシピの考案
期 日	平成25年11月～12月
場 所	青森中央短期大学
活動内容・参加者等	アピオスの特性を活かした新しいレシピの開発を行った。
事業名 ⑤	青森の郷土食「食体験プログラム」を組み合わせた誘致活動
期 日	平成25年12月～平成26年3月
場 所	青森県全域
活動内容・参加者等	受け入れ組織による食体験リストの調査及び四季の食材による料理プログラムの策定、郷土食の実習、外国人向けレシピの作成等を行った。

40 株式会社 東奥日報社

活 動 内 容
東奥日報社としては、事業として食育に取り組んでいないが、食に関する記事(例えば「ろばた談義」など)を積極的に掲載したり、食育に関する記事を努めて取材・掲載している。

41 農林水産省東北農政局青森地域センター

活動内容(事業名、事業内容、参加者等記入)	
平成25年度は、食育推進計画の未策定及び2次計画の策定を予定する市町村への支援等を継続して実施。 また、関係機関、団体等が開催する食育関連イベント等に積極的に参加し、消費者等に対して情報発信。 特に、「食事バランスガイド」、「日本食文化を無形文化遺産に」を中心に普及・啓発及び情報提供。	
事業名 ①	食育推進計画の未策定及び2次計画策定を予定する市町村への支援等
期 日	平成25年度
対 象	食育推進計画未策定及び2次計画の策定を予定する市町村
活動内容・参加者等	食育推進計画が策定されていない市町村を対象に進捗状況の把握、計画策定に関する支援等を実施。 1次計画の実施期間が終了、または終了が予定される市町村を対象に2次計画策定の働きかけを実施。
事業名 ②	食育月間における取り組み(食事バランスガイドの普及・啓発)
期 日	平成25年6月中
場 所	—
活動内容・参加者等	青森県・管内地域県民局(4)・管内市町村(24)及び消費者団体等(36)に対して、「食育月間ポスター(またはチラシ)」、「食育ガイド」を配付。
期 日	平成25年6月5日(水)
場 所	イトーヨーカ堂 青森店
活動内容・参加者等	「食事バランスガイド」に関するパネルを展示するとともに、来店者へパンフレット等を配付して普及・啓発。(約100人)
期 日	平成25年6月18日(火)
場 所	イトーヨーカ堂 弘前店
活動内容・参加者等	「食事バランスガイド」に関するパネルを展示するとともに、来店者へ「食育ガイド」のパンフレットも併せて配付し普及・啓発。(約200人)
事業名 ③	食育関連イベント等への参加
期 日	平成25年9月8日(日)

場 所	新青森県総合運動公園内 マエダアリーナ
活 動 内 容・ 参 加 者 等	「みんなでスポーツ・アップリートフェスタ」への参加。 「食事バランスガイド」、「日本食文化を無形文化遺産に」に関するパネルを 展示するとともに、来場者へパンフレット等を配付し普及・啓発。(約1,000人)
期 日	平成25年11月6日(水)
場 所	県民福祉プラザ
活 動 内 容・ 参 加 者 等	「第49回青森県消費者大会」への参加 「食事バランスガイド」の関連パネルを展示するとともに、来場者へ「食育ガイ ド」のパンフレットも併せて配付し普及・啓発。(約500人)
事 業 名 ④	各種講座への講師派遣
期 日	平成26年1月15日(水)
場 所	(独)鉄道建設・運輸使節整備支援機構 鉄道建設本部青森新幹線建設局
活 動 内 容・ 参 加 者 等	「健康的な食生活を行うために～生活リズムと食事バランス」をテーマに、 「食事バランスガイド」を中心に情報提供。(30人)
事 業 名 ⑤	「移動消費者の部屋」開設
期 日	平成25年7月26日(金)
場 所	青森市東部市民センター
活 動 内 容・ 参 加 者 等	「東部女性大学・大学院」の開講に併せ、「食事バランスガイド」、「日本食 文化を無形文化遺産に」に関するパネルを展示するとともに、受講者へパンフ レット等を配付し普及・啓発。 『食育講座』において、「食事バランスガイド」、「世界のお米」等について情 報提供。(20人)

42 農林水産省東北農政局八戸地域センター

活動内容（事業名、事業内容、参加者等記入）	
事 業 名 ①	管内市町村食育推進協議会への参画等
期 日	平成25年7月30日
場 所	南部町名川分庁舎
活 動 内 容・ 参 加 者 等	南部町食育推進協議会にアドバイザーとして参画し、平成25年度食育関 連施策の取組内容等の把握。 また、第2次食育推進計画未策定市町村を対象に、進捗状況の把握、計画 策定に係る支援等を実施。
事 業 名 ②	食育月間における取組（「食事バランスガイド」等の普及・啓発）
期 日	平成25年6月22日
場 所	カブ・シンフォニープラザ店(八戸市)
活 動 内 容・ 参 加 者 等	食事バランスガイドを中心とした食育関連パネルの展示、パンフレット配布、 豆つかみゲーム、食育クイズ等を通して、一般消費者や子どもたちへ食育を 推進。
期 日	平成25年6月27日
場 所	協同組合 八食センター(八戸市)
活 動 内 容・ 参 加 者 等	食事バランスガイドを中心とした食育関連パネルの展示、パンフレット配布、 等を通して、一般消費者へ食育バランスガイド等の普及及び啓発を実施。
期 日	平成25年6月中
活 動 内 容・ 参 加 者 等	管内市町村等関係機関等に対し、「平成25年度「食育月間」実施要領(内 閣府)」と食育月間ポスターを配布。

事業名 ③	食育関連イベント等への参加
期 日	平成25年8月24日、11月23日、平成26年1月18日
場 所	カブ・シンフォニープラザ店(八戸市)
活動内容・参加者等	食事バランスガイドを中心とした食育関連パネルの展示、パンフレット配布、豆つかみゲーム、野菜の花あてクイズ、箱の中身あてクイズ、食品表示クイズ等を通して、一般消費者や子どもたちに対し食育を推進。
期 日	平成25年9月29日
場 所	八戸市公会堂・公会堂文化ホール(八戸市)
活動内容・参加者等	八戸市国民年金課・環境政策課主催の「八戸市環境・健康フェスタ2013」において、参加者に対し、食事バランスガイドを中心とした食育関連パネルの展示、パンフレット配布、豆つかみゲーム等を通して、一般消費者や子どもたちに対し食育を推進。
期 日	平成25年11月28日
場 所	八戸市立白山台公民館
活動内容・参加者等	青森県三八地域県民局地域農林水産部主催の「三八地域食育推進フォーラム」において、参加者に対し、食事バランスガイドを中心とした食育関連パネルの展示、パンフレット配布等を通して、食事バランスガイド等の普及・啓発を実施。
取組の具体的な手法や特徴的なこと	食育関連イベント等への参加の際は、パネルの展示やパンフレットの配布のほか、ゲームやクイズを行うことにより、より多くの消費者や子どもたちに参加していただくよう工夫している。

43 青森県中小企業団体中央会

活動内容
<p>あおり「食」産業型組合応援プロジェクトとして、地域資源を活用した食産業型の連携組織や企業による展示即売会を開催し、青森県の地域資源と商品化の事例紹介及び情報発信を通じ、一般消費者に対する地産地消への理解を深めている。</p> <p>また、既存の食産業型組合に対し、地域資源を活用したブランド力の強化と、新商品開発等の支援を行っている。</p>

44 青森県農業会議

活動内容
<ol style="list-style-type: none"> 1 市町村農業委員会への情報提供活動の実施。 2 全国農業会議所等との連携。